

家畜衛生だより

Animal Hygiene News Letter

第292号

令和5年5月発行



新潟県

発行元：中央家畜保健衛生所

〒959-0423 新潟市西蒲区旗屋 636

TEL 0256-88-3141 FAX 0256-88-3185

Mail ngt066010@pref.niigata.lg.jp

高病原性鳥インフルエンザ ～過去最多の発生～

2022～2023シーズンは、過去最速の10月28日に国内1例目が確認されて以来、令和5年4月14日時点で26道県84事例発生し、約1,171万羽が殺処分の対象と過去最多の発生となっています。本県でも、今シーズンは表1のとおり、11月に阿賀町、1月に村上市・上越市、3月に胎内市と計5例の発生が確認され、防疫措置が行われました。これまでに、高病原性鳥インフルエンザの発生がなかった福島県、鳥取県、山形県、沖縄県、長崎県、群馬県においても発生。直近では4月7日に北海道で確認。

4月に入っても下越地域の野鳥からウイルスが確認されており、未だ油断できない状況です。

改めて飼養衛生管理基準遵守を徹底し、不備があれば、早急に改善するようお願いします。

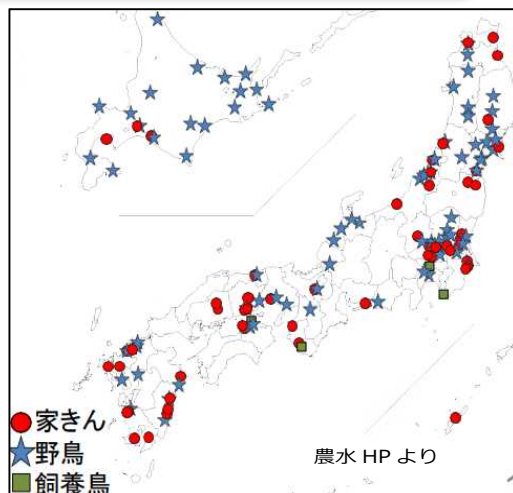


表1 今シーズン本県での高病原性鳥インフルエンザ発生状況

例数	発生日	市町村	用途	羽数	防疫措置完了	移動制限解除	備考
1	R4. 11. 18	阿賀町	肉養鶏	15.6万	R4. 11. 24	R4. 12. 16	関連施設舎
2	R5. 1. 6	村上市	採卵鶏	130万	R5. 1. 19	R5. 2. 10	自衛隊要請
3	R5. 1. 13	上越市	採卵鶏	10.5万	R5. 1. 17	R5. 2. 8	
4	R5. 3. 6	胎内市	採卵鶏	68万	R5. 3. 21	R5. 4. 14	自衛隊要請
5	R5. 3. 12	胎内市	採卵鶏	33万	R5. 3. 23	R5. 4. 14	

豚熱 ～継続して野生イノシシ陽性確認 引き続き警戒を～

野生イノシシ（捕獲・死亡）について豚熱の検査を継続していますが、令和4年度は、本県では224頭検査し7頭（新発田市5頭、五泉市1頭、新潟市西蒲区1頭）、5年度は1頭（阿賀野市）で陽性が確認されています（4月25日現在）。

全国では令和4年11月以降、農場等での発生はしばらくありませんでしたが、令和5年3月1日、茨城県の農場で発生が確認され、北海道、九州を除く39都府県で豚熱ワクチン接種が実施されていますが、油断できない状況です。

野生動物の侵入防止や農場出入り時の消毒等、ウイルスの侵入防止対策に努めることが重要です。

表2 本県野生イノシシの検査状況

年度	検査数	陽性数
H30	15	0
R1	139	0
R2	245	37
R3	219	10
R4	224	7
R5	1	1
計	843	55

飼養衛生管理基準の遵守、異常畜の早期発見・通報をお願いします

令和5年度の重点実施事項

○ 家畜衛生対策の徹底

- ・ 発生防止対策：飼養衛生管理基準の遵守、豚熱ワクチンの円滑な接種および免疫付与状況等の確認、野生イノシシへの浸潤状況の的確な把握
- ・ まん延防止対策：関係者と連携強化し危機管理体制強化、発生時の迅速且つ的確な対応のため防疫計画書の整備・防疫訓練等の開催
- ・ 人材の確保と育成：修学資金制度を活用した産業動物獣医師の確保

○ 生産基盤の強化

- ・ 意欲ある畜産の担い手を支援する体制・取組への積極的な協力
- ・ 後継者の育成、円滑な経営継承、経営改善及び衛生対策の推進等を総合的に支援
- ・ 酪農・肉用牛経営における規模拡大や生産拡大への支援

○ ブランド力の強化、生産性向上及びコスト低減による所得の確保

- ・ 衛生的飼養管理による安全・安心な畜産物の生産と畜産のイメージアップ推進
- ・ 畜種別生産性阻害疾病対策による経済損失の低減
- ・ 新技術の普及：受精卵移植技術を活用した効率的な後継牛及び子牛の生産

早期の暑熱対策で暑い夏を乗り切りましょう！

近年の猛暑により、管内でも毎年複数の暑熱被害が報告されています。暑熱対策は、複数を組み合わせると効果的です。暑い時期を迎える前、早期に再点検し、できるだけ暑熱被害を少なくするようにしましょう。

- 通風・換気の確保（換気扇、ダクト等）
- 送風機の設置・位置調節・清掃
- 寒冷紗・樹木や遮光ネット等の設置
- 屋根・壁・床への断熱材の設置、塗装
- 細霧装置の設置
- 十分な飲水の確保
- こまやかな給餌管理 など



畜舎への石灰塗布（全農 JACC 社提供）

《4月から新体制となりました》

本年度も当所業務へのご理解とご協力をお願いします。

*：転入者等

所長・次長	課・係	課長	副参事	主査・主任・獣医師	
所長 本間裕一	企画指導課	岡本英司	堀江香会	野崎朋子*	今井杏子*
	庶務係			大勝裕子 戸川裕介	小柳智子*
次長 岡本英司	防疫課	馬上斉*	和食雄一*	濱田英莉(育休) 岩本美貴(臨時)	宮島証生*
	病性鑑定課	福留 静		村山和範 大川原志織 弥田進(臨時)*	佐藤圭介 吉崎響



令和5年度の重点実施事項

- 家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化
 - ・家畜伝染病の発生予防のため、生産者への最新情報の提供と注意喚起とともに、飼養衛生管理基準の遵守調査並びに改善指導を行います。
 - ・迅速かつ的確な初動対応ができるように、防疫計画の確認や地域振興局等と連携した防疫訓練を実施します。
- 畜産経営における生産性向上及びコスト低減による所得確保
 - ・搾乳衛生及び飼養管理を指導し、生乳の品質維持・向上を図ります。
 - ・黒毛和種繁殖牛及び子牛増頭、新規就農者の育成を目的に設立された大型和牛繁殖支援施設で、定期的な衛生検査、飼養衛生管理の指導を行います。
 - ・公共放牧場や農場での牛伝染性リンパ腫の対策指導を行います。
 - ・繁殖農場での受精卵移植技術を活用した遺伝的改良、優良な和牛子牛の増頭を支援します。また、子牛の事故防止のために衛生指導を行います。
 - ・肥育牛の検査・指導により、高品質な「にいがた和牛」の生産拡大を支援します。

高千市場で春季子牛市場が開催

4月2日に高千市場において令和5年度春季子牛市場が開催されました。今市場では、雌66頭、去勢75頭の合計141頭上場され、活気のある売買が繰り広げられました。今後も優良和牛子牛生産地域として、繁殖成績、子牛の発育などに留意し、子牛の安定供給に努めていきたいと思います。

高千家畜市場成績（2023年4月）

	上場頭数	日令	体重	日齢体重	価格	kg単価
雌	66	265	245	930	452,283	1,837
去勢	75	262	278	1,066	625,005	2,254
計・平均	141	264	263	1,002	544,157	2,059

放牧が始まりました！

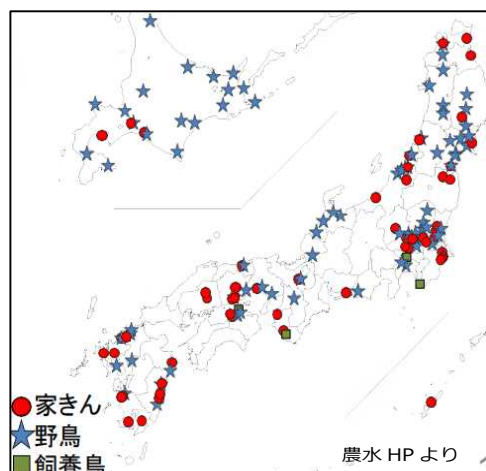
今年も島内で牛の放牧が始まりました。4月末までに、5か所の放牧場で計76頭が放牧され、元気に走り回ったり、草を食んだりする様子が見られました。今年も牛伝染性リンパ腫の感染状況に応じた区分けをしています。ご理解とご協力をお願いします。



高病性鳥インフルエンザ ～過去最多の発生～

2022～2023 シーズンは、令和 5 年 4 月末時点で 26 道県 84 事例発生し、約 1,171 万羽が殺処分の対象と過去最多の発生となっています。県内でも下表のとおり、11～3 月にかけて計 5 事例の発生が確認され、防疫措置を行いました。

4 月 14 月をもって 4、5 事例目の移動制限が解除されましたが、下越地域や隣県では、カラス等の野鳥から本病ウイルスが確認されており、未だ油断できない状況です。



県内での高病原性鳥インフルエンザ発生状況

事例	発生日	市町村	用途	殺処分羽数	防疫措置完了	移動制限解除	備考
1	R4. 11. 18	阿賀町	肉用鶏	15.6 万羽	R4. 11. 24	R4. 12. 16	関連施設含
2	R5. 1. 6	村上市	採卵鶏	130 万羽	R5. 1. 19	R5. 2. 10	自衛隊要請
3	R5. 1. 13	上越市	採卵鶏	10.5 万羽	R5. 1. 17	R5. 2. 8	
4	R5. 3. 6	胎内市	採卵鶏	68 万羽	R5. 3. 21	R5. 4. 14	自衛隊要請
5	R5. 3. 12	胎内市	採卵鶏	33 万羽	R5. 3. 23	R5. 4. 14	

早期の暑熱対策で暑い夏を乗り切りましょう

近年の猛暑により、管内でも毎年多くの暑熱被害が報告されています。暑熱対策は、複数を組み合わせると効果的です。暑い時期を迎える前、早期に再点検し、できるだけ暑熱被害を少なくするようにしましょう。

- 通風・換気の確保（換気扇、ダクト等）
- 送風機の設置・位置調節・清掃
- 寒冷紗・樹木や遮光ネット等の設置
- 屋根・壁・床への断熱材の設置、塗装
- 細霧装置の設置
- 十分な飲水の確保
- こまやかな給餌管理 など



畜舎への石灰塗布（全農 JACG ネット提供）

=== **新たな組織体制となりました。よろしくお願ひします！** ===

* 転入者

支所長	主査	主任	主査（庶務）
後藤 靖行*	田中 健介	羽入 さち子	武井 珠美

お世話になりました・平山栄一（上越家保へ）

家畜衛生だより

新潟県下越家畜保健衛生所

〒959-2331 新潟県新発田市下飯塚139-3

TEL:0254-22-3067 FAX:0254-24-4022

夜間・休日・緊急時:080-1134-8706

E-mail:nigt066020@pref.niigata.lg.jp



No.275 令和5年5月発行

令和5年度の重点実施事項

○ 家畜伝染病の防疫対策

鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生予防対策のため、畜産農場に飼養衛生管理基準の遵守徹底を指導します。また、迅速かつ的確なまん延防止を図るため、防疫計画書の見直しや実践的な防疫訓練等を行い、危機管理体制を強化します。

○ 畜産物の安全性確保対策

安全・安心な畜産物を供給するため HACCP 方式に基づく衛生管理を取り入れた「畜産安心ブランド生産農場」に対する認定基準の維持と取り組みを継続します。また、農場での HACCP システム構築について定期的な助言・指導を行い、農場 HACCP 構築への取組を支援します。

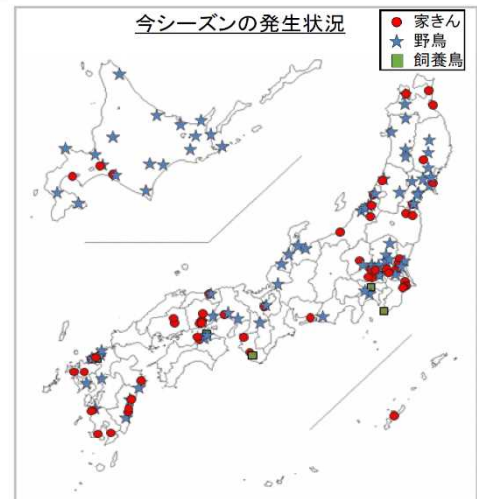
○ 生産性向上対策

乳房炎防除・乳質改善、肉牛の肉質向上・繁殖改善、養豚の衛生対策改善を支援し、生産性向上、ブランドカの向上、及びコスト低減を図ります。また、牛伝染性リンパ腫・ヨーネ病の清浄化、牛ウイルス性下痢の摘発検査・対策指導を実施し生産性向上を支援します。

高病原性鳥インフルエンザ ～過去最多の発生～

今シーズンは、過去最速の10月28日に国内1例目が確認されて以来、令和5年5月6日時点で26道県84事例発生し、約1,771万羽が殺処分の対象と過去最多の発生となっています。本県でも、今シーズンは表1のとおり、11月に阿賀町、1月に村上市・上越市、3月に胎内市と計5例の発生が確認され、防疫措置が行われました。これまでに、高病原性鳥インフルエンザの発生がなかった福島県、鳥取県、山形県、沖縄県、長崎県、群馬県においても発生しました。

4月に入っても下越地域の野鳥（ハシブトガラス）からウイルスが確認され、地域にウイルスが長期間存在する心配があります。



改めて飼養衛生管理基準遵守を徹底し、不備があれば、早急に改善するようお願いします。

表1 今シーズン本県での高病原性鳥インフルエンザ発生状況

例数	発生日	市町村	用途	羽数	防疫措置完了	移動制限解除	備考
1	R4. 11. 18	阿賀町	肉養鶏	15.6万	R4. 11. 24	R4. 12. 16	関連施設含
2	R5. 1. 6	村上市	採卵鶏	130万	R5. 1. 19	R5. 2. 10	自衛隊要請
3	R5. 1. 13	上越市	採卵鶏	10.5万	R5. 1. 17	R5. 2. 8	
4	R5. 3. 6	胎内市	採卵鶏	68万	R5. 3. 21	R5. 4. 14	自衛隊要請
5	R5. 3. 12	胎内市	採卵鶏	33万	R5. 3. 23	R5. 4. 14	

豚熱 ～継続して野生イノシシ陽性確認 引き続き警戒を～

野生イノシシ（捕獲・死亡）について豚熱の検査を継続していますが、令和4年度は、本県では224頭検査し7頭（新発田市5頭、五泉市1頭、新潟市西蒲区1頭）、5年度は1頭（阿賀野市）で陽性が確認されています（5月16日現在）。

全国では令和4年11月以降、農場等での発生はしばらくありませんでしたが、令和5年3月1日、茨城県の農場で発生が確認され、北海道、九州を除く39都府県で豚熱ワクチン接種が実施されていますが、油断できない状況です。

年度	検査数	陽性数
H30	15	0
R1	139	0
R2	245	37
R3	219	10
R4	224	7
R5	4	1
計	846	55

野生動物の侵入防止や農場出入り時の消毒等、ウイルスの侵入防止対策に努めることが重要です。

カラス対策 ～カラスによる被害ありませんか？～

カラスは、畜産農家にとって、飼料を食べたり、ラップサイレージに穴を開けたり、ひどい場合は乳房等を突っつき外傷を負わせたり、また糞をするなどの行動で伝染病を媒介するなど、多くの被害をもたらす厄介者となっています。今期、県内では死亡カラスから鳥インフルエンザウイルスが確認されました。特に養鶏場では鶏舎周囲にカラスを近づけない対策を取りましょう。

- ・日本に生息するカラスは5～7種類：主に、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ミヤマガラス
- ・カラスの生態：①大きさ：ハシブトガラスが最大で翼開長約100cm
- ②寿命：長いもので20年？ ③食べ物：ハシブトガラス等は雑食性。
- ④繁殖期：3～7月、高い木等に3～5個産卵、7月ごろ、2～3羽巣立つ。
- ⑤脳の重さ：鶏の3～4倍、頭がいい。⑥行動範囲：ねぐらから約10km？
- ⑦ねぐらは、秋～冬は個々の群れが集まり集団ねぐらを形成、100～1000羽の集団が多い。
- ・対策
 - ①防鳥ネット、テグスの活用：畜舎に防鳥ネットを張り、周囲にテグスを張ります。翼に物があたる事を嫌がるため、**最も効果的**。
 - ②冬季、地域で餌場を減らす：脂肪が少なく代謝の高い動物のため、1週間ほど食べないと餓死するので、地域一体となり餌場を減らします。
 - ③警戒心をあおる方法：疑似猛禽類、人工音、光など様々な商品を利用します。効果がなくなったら、すぐに撤去することも重要。



手数料の一部改訂

○家畜保健衛生所法の規定に基づく牛の人工授精の実施に関する業務	
・過剰卵処理:15,000円	・受精卵の採取:13,300円
・受精卵の凍結保存:8,700円	・受精卵の移植:8,600円

《4月から新体制となりました》

○本年度もよろしくお願ひします。

※転入者

所長・次長	課	課長	副参事	主査・主任		職員
所長 小林淳吉	企画指導課	(次長兼務)	権田寛子	伊花奈々子	山家菜摘美	下村一與喜
次長 内山保彦*	防疫課	曾我万里子*	木村仁徳*	中村正明*	市川雄紀	
				町田栄里子	森山友恵	
				増門宙 (新採用)		

転出者：里麻啓、佐藤香代子（中越家保へ）、和食雄一、野崎朋子（中央家保へ）



令和5年度の重点実施事項

- **家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化**
 - ・ 家畜伝染病の発生予防のため、飼養衛生管理基準の遵守調査および改善指導を実施します。
 - ・ 万一の発生に備えて、迅速な初動対応ができるように防疫計画を随時更新し、関係機関と連携・協力して防疫対応マニュアルの修正や防疫訓練を実施します。
- **ブランドカの強化と生産性向上・コスト低減による所得確保**
 - ・ 肥育牛の検査により、ビタミンAコントロールなどの飼養管理指導を行い、肉質向上を支援します。
 - ・ 畜種別生産性阻害疾病対策により損耗低減を図ります。
 - ・ (公社)中央畜産会が行う「農場 HACCP 認証」及び県が行う「畜産安心ブランド認定農場」の衛生レベルの維持・向上に努め、新たに取り組む農場に対して支援を行います。

高病原性鳥インフルエンザ ー過去最多の発生ー

2022～2023 シーズンは、10月28日に国内1例目
が確認されて以降、令和5年4月14日時点で26道県
84事例、約1,771万羽が殺処分と過去最多の発生とな
っています。本県でも表のとおり、11月～3月に5事
例の発生が確認され、防疫措置を行いました。これま
でに発生がなかった福島県、鳥取県、山形県、沖縄県、長
崎県、群馬県においても発生し、直近では4月7日に
北海道で発生しています。また、本県では4月にも野鳥
からウイルスが確認されており、未だ油断できない状況
が続いています。

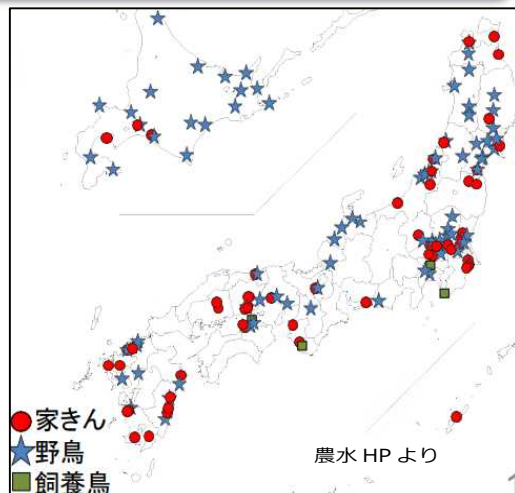


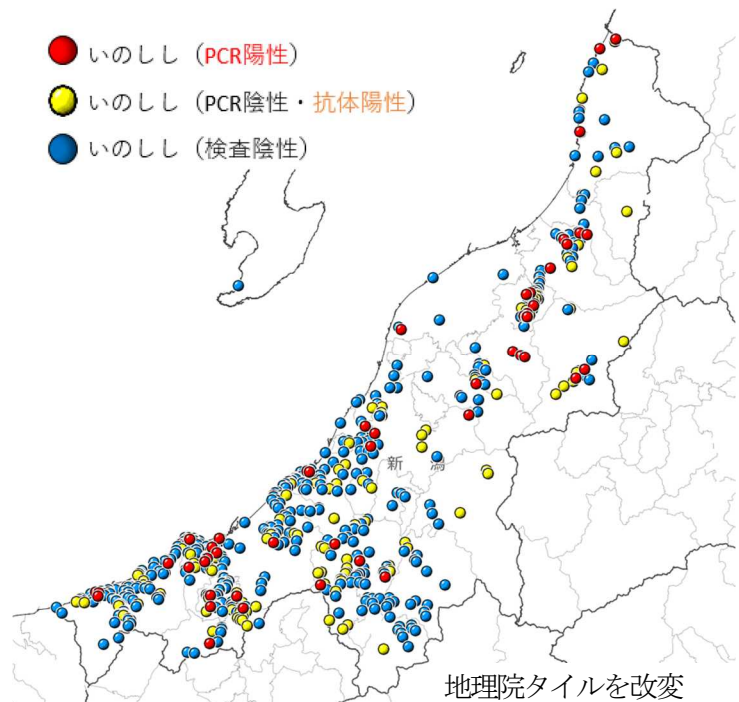
表 本県での高病原性鳥インフルエンザ発生状況 (2022～2023 シーズン)

例数	発生日	市町村	用途	羽数	防疫措置完了	移動制限解除	備考
1	R4. 11. 18	阿賀町	肉養鶏	15.6万	R4. 11. 24	R4. 12. 16	関連施設含
2	R5. 1. 6	村上市	採卵鶏	130万	R5. 1. 19	R5. 2. 10	自衛隊要請
3	R5. 1. 13	上越市	採卵鶏	10.5万	R5. 1. 17	R5. 2. 8	
4	R5. 3. 6	胎内市	採卵鶏	68万	R5. 3. 21	R5. 4. 14	自衛隊要請
5	R5. 3. 12	胎内市	採卵鶏	33万	R5. 3. 23	R5. 4. 14	

飼養衛生管理基準の遵守、異常畜の早期発見・通報をお願いします

豚熱 -引き続き警戒してください-

新潟県では、野生イノシシ（捕獲・死亡）について豚熱の検査を平成30年9月から継続しており、令和5年4月25日時点で843頭を検査し、55頭で豚熱ウイルスの遺伝子（赤色丸）を確認しています。直近では令和5年4月に阿賀野市で確認されています。また、捕獲されたイノシシについては抗体検査も実施していますが、602頭検査し183頭で抗体のみ（黄色丸）を確認しています。野生イノシシの抗体については、イノシシ用の経口ワクチンを散布していることからワクチン抗体も考えられますが、経口ワクチンの散布を行っていない地域のイノシシでも抗体が確認されており、油断できない状況です。



早期の暑熱対策で暑い夏を乗り切りましょう！

近年の猛暑により、管内でも暑熱被害が毎年報告されています。暑熱対策は、複数を組み合わせると効果的です。暑い時期を迎える前に、再点検し、できるだけ暑熱被害を少なくするようにしましょう。

- 通風・換気の確保（換気扇、ダクト等）
- 送風機の設置・位置調節・清掃
- 寒冷紗・樹木や遮光ネット等の設置
- 屋根・壁・床への断熱材の設置、塗装
- 細霧装置の設置
- 十分な飲水の確保
- こまかな給餌管理 など



畜舎への石灰塗布（全農JACCネット提供）

新体制になりました。よろしくお願ひします

所長・次長	課	課長	副参事	主査・主任
所長 佐藤 義政	企画指導課	濱崎 尚樹	竹内 智胤*	渡辺 由紀子（庶務担当） 漆原 麻純 櫻井 裕子（臨時）
次長 濱崎 尚樹	防疫課	里麻 啓*	鈴木 一徳*	佐藤 香代子* 五十嵐 紗代子

*転入者 転出者：阿部隆司 → 退職 木村仁徳、中村正明 → 下越家保 今井杏子 → 中央家保

家畜衛生だより

No. 212 令和5年5月発行



上越家畜保健衛生所

〒943-8551

新潟県 上越市本城町 5-6

TEL: 025-526-9441 FAX: 522-1724

E-mail: ngt066060@pref.niigata.lg.jp

令和5年度の重点実施事項

○ 家畜伝染病の発生予防とまん延防止体制の強化

鳥インフルエンザ等の家畜伝染病の発生予防対策の徹底を図るため、飼養衛生管理基準の遵守指導を行います。また、迅速かつ的確にまん延防止対策を講じるため、防疫計画の再点検や防疫訓練により、危機管理体制を強化します。

○ 生産基盤強化のための技術指導

担い手の規模拡大や後継者の育成等を推進するため、経営改善及び衛生対策を総合的に支援します。

○ ブランドの強化、生産性向上及びコスト低減

肥育成績向上や乳質改善を支援し、生産性向上やコスト低減を図ります。また、公共牧場における牛伝染性リンパ腫対策を推進し、牧場の利用を促進します。

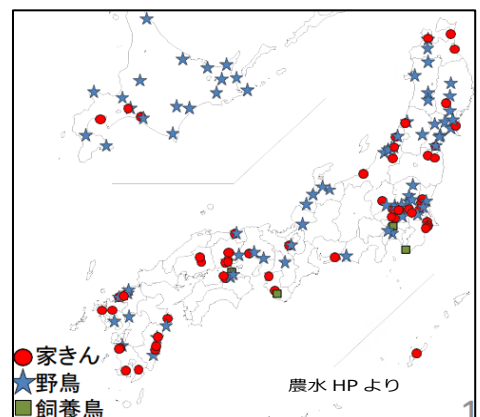
高病原性鳥インフルエンザ ～過去最多の発生～

今シーズンは、4月14日時点で、26道県84事例約1,171万羽が殺処分の対象と過去最多の発生となっています。

本県も、表1のとおり、11月に阿賀町、1月に村上市・上越市、3月に胎内市と計5例の発生が確認されました。

これまでに発生がなかった福島県、鳥取県、山形県、沖縄県、長崎県、群馬県でも発生し、直近では4月7日に北海道で確認されています。

4月に入っても下越地域の野鳥からウイルスが確認されており、未だ油断できない状況です。



～ ゴールデンウィーク明けまで、発生予防対策の継続してください ～

表1 今シーズン本県での高病原性鳥インフルエンザ発生状況

No.	発生日	市町村	用途	羽数	防疫措置完了	移動制限解除
1	R4. 11. 18	阿賀町	肉用鶏	15.6万	R4. 11. 24	R4. 12. 16
2	R5. 1. 6	村上市	採卵鶏	130万	R5. 1. 19	R5. 2. 10
3	R5. 1. 13	上越市	採卵鶏	10.5万	R5. 1. 17	R5. 2. 8
4	R5. 3. 6	胎内市	採卵鶏	68万	R5. 3. 21	R5. 4. 14
5	R5. 3. 12	胎内市	採卵鶏	33万	R5. 3. 23	R5. 4. 14

笹ヶ峰放牧場 ～ 本年度の衛生検査体制 ～

5月下旬の開牧が予定されている笹ヶ峰放牧場の衛生検査については、下表のとおりです。
また、「牛伝染性リンパ腫対策」を引き続き実施しますので、ご理解のほどお願いします。

～ 馴致やワクチン接種など、上牧に向けた準備を早めに進めてください ～

検査	検査項目	対象牛	検査手数料
上牧前	ヨーネ病	検査未実施の牛	700円
	牛ウイルス性下痢	検査未実施の牛	2,000円
	牛伝染性リンパ腫	全頭：抗体検査 (陰性：遺伝子検査)	無料
放牧中	牛伝染性リンパ腫	陰性牛群：抗体検査	無料
	ピロプラズマ症	全頭：放牧中2回	470円/回

早期の暑熱対策で暑い夏を乗り切りましょう！

近年の猛暑により、管内でも毎年複数の暑熱被害が報告されています。暑熱対策は、複数を組み合わせると効果的です。暑い時期を迎える前、早期に再点検し、できるだけ暑熱被害を少なくするようにしましょう。

- 通風・換気の確保（換気扇、ダクト等）
- 送風機の設置・位置調節・清掃
- 寒冷紗・樹木や遮光ネット等の設置
- 屋根・壁・床への断熱材の設置、塗装
- 細霧装置の設置
- 十分な飲水の確保
- こまやかな給餌管理 など



畜舎への石灰塗布（全農 JACC ネット提供）

《4月から新体制となりました》

○ 本年度もよろしくお願いいたします。

※：転入者

所長	次長 (企画指導課長)	企画指導課		防疫課	
		臨時職員	臨時職員	防疫課長	主査
平山栄一※	太田洋一※	牧井賢充	前田紀貢子	篠川 温※	八木笑子